

2015年9月10日

ご参考資料

楽読
(ラクヨミ) Vol.
1,005Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

利下げが続くニュージーランド ～今後の経済見通しは？

nikko am
fund academy

ニュージーランド準備銀行(中央銀行)は9月10日、3会合連続となる利下げを決定し、政策金利を3.00%から2.75%へ引き下げました。市場予想どおりの利下げだったものの、発表後、ニュージーランドドル(以下、NZドル)は対円・対米ドルで下落する展開となっています。

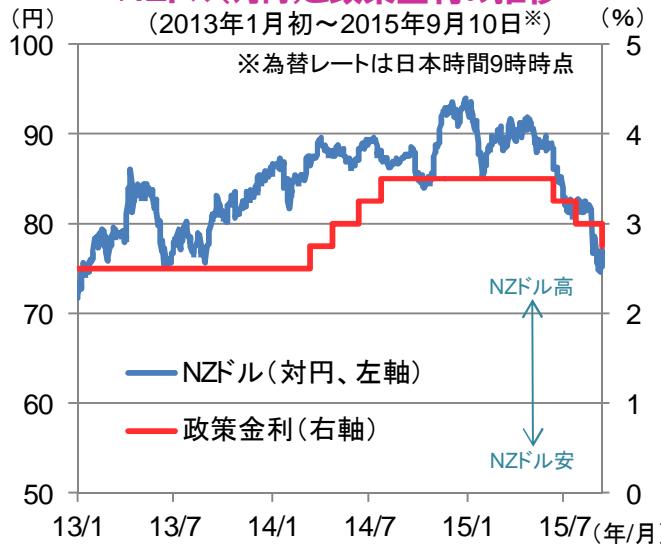
今回の利下げ決定後のニュージーランド準備銀行総裁の声明では、「経済成長が鈍化するなかで、インフレ率押し上げのために追加利下げが必要になる可能性がある」との認識が示されました。そのため、景気の下支えや低いインフレ率の押し上げに向け、準備銀行は引き続き追加利下げを視野に入れているとみられます。ニュージーランドは、昨年、OECD(経済協力開発機構)加盟国でいち早く利上げに踏み切ったものの、今年に入り、経済成長率が鈍化しインフレ率がゼロ付近にとどまるなか、迅速に利下げを行なっており、市場では昨年の利上げ開始前の水準(2.5%)にまで戻すとみられています。

景気が鈍化した主な要因として、同国の輸出の2~3割を占める乳製品の価格が、国際市場における需給悪化などを背景に大幅に下落し、輸出額が落ち込んだことが挙げられます。しかし、足元で乳製品価格は反発していることに加え、乳製品に次ぐ輸出規模の肉類や木材などの輸出が堅調を維持しており、全体の輸出は回復傾向にあります。また、NZドル安や中国との航空路線の増強などを背景に、主要産業のひとつである観光業は好調なほか、移民の増加やクライストチャーチ地震の復興需要などを背景に、住宅市場は概ね好調を維持しています。

主要輸出先である中国の景気がさらに減速する場合、ニュージーランド経済も影響を受ける可能性があるものの、NZドル安が観光業や輸出産業を後押しするとみられるほか、利下げによる景気下支え効果も期待できることなどから、中長期的には同国経済は堅調に推移するものと期待されます。

NZドル(対円)と政策金利の推移

(2013年1月初～2015年9月10日※)



輸出額の伸び率(前年同月比、月次)の推移

(2013年1月～2015年7月)



移民純流入数と住宅販売件数の推移(月次)

(2013年1月～2015年7月)



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。